

岩手県金融経済概況（2022年7～8月）

1. 概況

県内経済は、緩やかに持ち直している。

最終需要の動きをみると、公共投資は、減少している。設備投資は、増加している。個人消費は、持ち直している。住宅投資は、持ち直しの動きが鈍化している。この間、生産は、総じてみれば持ち直し基調にある。雇用・所得環境は、改善の動きがみられる。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

2. 最終需要

公共投資は、減少している。

但し、先行指標である公共工事請負金額（2022年8月）は、1年7ヵ月振りに前年を上回った（前年比+0.8%）。

設備投資は、増加している。

2022年6月短観（岩手県）における2022年度の設備投資は、前年度を大幅に上回る計画となっている（前年度比+69.4%）。内訳をみると、製造業では、電子部品・デバイスや輸送機械における能力増強投資を主因に前年度比2倍近い計画（同+93.8%）。非製造業でも、感染症の影響緩和を受けて前年を上回る計画となっている（同+14.9%）。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響などが和らぐ中、持ち直している。

百貨店売上高（全店舗ベース：2022年7月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+3.8%）。スーパー売上高（全店舗ベース：2022年7月）も、2ヵ月振りに前年を上回った（同+4.7%）。また、新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞：2022年8月）は、2ヵ月振りに前年を下回った（同△13.0%）。

この間、サービス消費は、飲食・宿泊を中心に持ち直している。

住宅投資は、持ち直しの動きが鈍化している。

新設住宅着工戸数（2022年7月）は、3ヵ月連続で前年を下回った（前年比△15.4%）。内訳をみると、貸家（同+0.0%）は前年と同水準となったが、持家（同△24.0%）、分譲（同△14.5%）が前年を下回った。

3. 生産動向

生産は、供給制約の影響はあるものの、総じてみれば持ち直し基調にある。

鉱工業生産指数（季節調整値：2022年7月）は、5ヵ月連続で前月を上回った（前月比+2.2%）。主な業種の指数をみると、食料品などが低下した一方、生産用機械、電子部品・デバイスなどが上昇した。

四半期の動きをみると、2022/4～6月は3期振りに前期比上昇した（2021/10～12月：前期比△3.7%、2022/1～3月：同△2.9%、4～6月：同+8.5%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、改善の動きがみられる。

有効求人倍率（季節調整値：2022年7月）は、1.31倍と前月と同水準となった（2022年6月：1.31倍）。

雇用者所得（県内合計値：2022年6月）は、名目賃金指数（前年比+2.8%）、常用雇用指数（同+1.3%）とも前年を上回る中、引き続き前年を上回った（同+4.1%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品：2022年8月）は、光熱・水道の上昇などから引き続き前年を上回った（前年比+2.2%）。

6. 企業倒産

企業倒産（2022年8月）は、3件、負債総額727百万円となった（前年同月は3件、305百万円）。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2022年7月）は、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2022年7月）は前月に比べて低下した。

以 上

